

## 「第3次白山市環境基本計画」に対するご意見と市の考え方について

募集期間：平成28年1月5日(火)～1月18日(月)

結 果：2名の方から2件の意見

パブリックコメントに寄せられた計画案へのご意見、ご要望と、それに対する市の考え方は以下のとおりです。

### 記

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>①</p> <p>白山の森林のおかげでCO<sub>2</sub>を吸収しO<sub>2</sub>を出している。その地点の降雨、降雪はやがて川となり、最終的には地中に浸み込み豊富な地下水となるが、蛇口を捻ると水が当たり前に出てくるので恩恵を感じていないのが現状である。</p> <p>森林の間伐、主伐、植林と循環しないとCO<sub>2</sub>の吸収量が減少する。若木はCO<sub>2</sub>吸収量が多いが、樹齢が行き過ぎると吸収量が少なくなる。</p> <p><u>伐採した木材は木製品として（公共施設に木築）利用、木製品に利用できない所は、ストーブ、ボイラー、熱電併用発電等冷暖房エネルギーに使用し、化石燃料を使用しない事でCO<sub>2</sub>を増やさないほか、製造工場</u>で新規雇用が期待できる。</p> <p>近年人口の減少、高齢化で耕作放棄地が増えており、獣害の棲家となっている。</p> <p><u>そこに羊、牛を放牧し雑草を餌に大きく育て、羊の乳はジェラード、肉はラム肉の</u></p>	<p>市域の73.7%が森林であることから、森林資源は本市にとっても重要な資源であり、森林管理として間伐等を毎年実施しているところです。</p> <p>また、建築材等に使用できない木材の利用を促進していくことは、林業の振興を図る上でも重要であると考えています。</p> <p>チップやペレットなどの木質バイオマス燃料は生産及び流通面でのコスト削減や需要の増加を図ることが重要ですが、本市の森林は急峻なため、木材搬出に作業道を新設する必要があったり、また、多くの労力とコストが掛かるといった課題があります。</p> <p>本市といたしましては、こうした課題をどのようにクリアしていけるのか、今後とも、検討していきたいと考えています。</p> <p>農業を取り巻く環境は、高齢化による農業従事者の減少や、米の需給バランスの変化に伴う米価の下落に加え、肥料・農薬等の資材高騰、国</p>

販売と地域の特産品に仕上げていく、その事で地域の環境教育、地域の協働参加が図られる。

の制度改正に伴う米の直接支払交付金の削減など、厳しさを増しており、特に中山間地域において、耕作放棄地の発生が懸念されています。

現在、吉野谷地域において、耕作放棄地の発生防止等を目的に、石川県立大学と石川県石川農林総合事務所等が連携して、和牛と羊の実験放牧を行っており、羊については、昨年12月にラム肉の試食会も実施したところであります。

今後につきましても、中山間地域における耕作放棄地の発生防止や新たな地域特産物の創出に繋がるよう、石川県立大学や石川県石川農林総合事務所等と連携を取っていきたいと考えております。

また、中山間地域において、国の中山間地域等直接支払事業や多面的機能支払事業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、大学や生薬・漢方薬メーカー等と連携して薬用作物の栽培や加工・乾燥調製を行うことにより、新たに雇用の創出や所得の向上を図り、かつ、大学（院）生との交流により、地域活性化に繋がる取り組みも引き続き行っていきたいと考えております。

②

地球温暖化に興味を持ち、このままでは私たちに未来はないと確信してから、何ができるかを考えてきた。

あらゆる文献を調査した結果、日本にある木材で二酸化炭素をより多く吸収するのは「桐」であり、他の樹木より成長が早く、早い段階からより多くの二酸化炭素を吸収できる循環型森林として、農業に近い感覚で栽培できるとのことです。

そこで私の考えた案は

- (1) 新しい取り組みとして桐を植林する
- (2) 植林後の定期的管理は子供達で行う
- (3) 将来持続生産可能となれば、コストの安い桐で町おこしに繋がるのではないか
- (4) このような循環型取組を途上国で活かす

(3)(4)はまだ先の話だが、まずの取り組みとして、桐が植えられそうな場所を市から貸してはもらえないか。

循環型森林である桐で、二酸化炭素を削減し、ゆくゆくは日本から消えつつある日本の桐を復活させたい。そして、世界へ広めることで、地球を救えると思う。

桐は植林後、1年で2～3mに達し、20年で成木になる早生樹で二酸化炭素吸収力が極めて高く、循環型林業に適した樹木であると考えておりますが、本市では、森林の有する土砂災害の防止や水源のかん養という理由から自然環境により適合している杉を主体とした植林を実施しております。

山間地における桐の植林においては、材質が柔らかいといった桐の特性から、雪害による倒木が多く発生するなど、雪の多い白山ろくでは難しいと考えております。

また、桐を生育させていくためには、高所での枝打ちや間伐等の作業が必要であり、また、土地を貸し出す期間が数十年という長期に渡ることから、子供たちでの管理は極めて難しいと考えています。

しかしながら、鶴来地域には「桐工芸」で有名な工房もあり、地域の産業創出や活性化につながるものとして、こうした木々を活用した取組について検討していきたいと考えています。